

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1171000282		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム 八潮		
所在地	八潮市緑町1-23-8		
自己評価作成日	平成22年4月13日	評価結果市町村受理日	平成22年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-">http://www.kohyo-</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2階		
訪問調査日	平成22年5月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様及び御家族様に安全かつ安心して過ごして頂ける様、施設内の安全管理は勿論、地域との連携強化に努め、奉仕活動やイベントへの参加、近隣医療機関との連絡を密にとり、緊急時には的確な指示を受けられたり迅速な受入れをして頂ける様に働きかけている。普段は近隣への散歩や日光浴に力を入れ、御近所様との挨拶や会話を通じてグループホームや認知症の方の理解にも一役買っている。御家族様はよく面会に来られる為、現況をよく相談できたり御意見を頂戴出来たりしグループホームにおける御家族との関係がとても良好に築けていて、催し物もいつも盛況で施設側としてもとても嬉しく思っている。地域で一番のグループホームになれるよう職員一同、日々反省を行いながら知識や技術の向上に努め全職員のレベルアップを意識しながら勤務している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者が地域とつながりながら暮らしを続けられるようにするために、まずは地域の人々にグループホームのことを知ってもらうことが大切と考え、地域の行事以外にも、ゴミ拾いや買い物、消防署の見学等、利用者が外出する機会を意図的に多く作っている。そして、地域の行事情報を積極的に集め、事業所側から「何かお手伝いすることはありませんか?」と歩み寄っていることから、地域の一員としての役割を担おうとしている姿勢が感じられた。また、利用者の「安全と安心」を第一に考え、時間をかけて対策を話し合っており、防災に関しても、消防署と連絡を密にとりながら訓練を頻繁に行い、対策を強化している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域から応援して頂ける施設づくり」という会社理念を基に施設理念を定め、事務所や休憩室に掲げ常に意識付けをしている。	オープンから一貫した4つの理念を掲げており、中でも「安心、安全面」に関しては、会議を何度も繰り返し、いろいろ対策を考えることで共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物等、外部の方と交流できる機会を設け、近隣の方や自治会等にも少しずつ認識が広がってきている。	散歩等で外に出る機会を増やし、地域への行事へは積極的に参加している。今は、理解を広めるために、ふれあいを大切にしているが、事業所側から何かお手伝いすることがないか、声をかけている。	事業所の中にも地域の人を迎え入れ、何かあった時にお互いに助け合えるような双方向の関係性の構築を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内行事や家族会、又、地域行事へ参加する機会を多くし、認知症の方との接し方など、会話の中からも学べるよう工夫をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、近況報告を行うと共に業務や運営に関する意見や要望等の意見交換を行っており、その内容は業務カンファにて職員に伝達を行い、適宜改善するようにしている。	地域包括支援センター職員、民生委員、家族、職員を主なメンバーとして開催している。事業所の状況報告とともに、防災面等運営に関する話し合いを行い、得た意見や要望は検討し、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的(毎月)入居状況などの報告に伺い、お互いに相談や助言を頂きながら質の向上に活かす等、常に連携を取りながら施設運営を行うようにしている。	以前から市の担当者とは連絡を密にとっており、協力関係を築いている。毎月定期的に市の担当窓口への訪問をしており、状況報告とともに地域の情報や助言等を得る機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇マナー、身体拘束廃止委員会を設置し、事例等を用いながら気づきにくい拘束等の勉強会を行ったりして、知識と対応方法の習得に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置して、何度も勉強会を重ねて話し合っており、「禁止の対象となる具体的な行為」については、事務室の壁に掲示し、全職員に周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇マナー向上委員会を通して、「利用者様は人生の先輩」であり、尊敬の気持ちを持ち接しなければならぬ事、言葉一つからも虐待に繋がる事を伝え防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とする入居者がいない為活用されていない。講習会などに参加し、学習の場を設けるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書等だけでは分かりにくい箇所については別紙を用いて説明すると共に、不明な点については繰り返し説明し納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	よく面会に来られる御家族とは会話をする機会があるので意見を頂ける機会があるが、他にも入居者様の表情や少しの仕草などから情報を得て、話し合いを行い改善に努めている。	運営推進会議や面会時の他、電話や手紙でも積極的に問いかけ、話しやすい雰囲気作りを心がけている。家族の要望、意見は親身になって受け入れ、満足していただけるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で意見を出しやすい雰囲気を作り、良い提案、意見は反映させている。また、職員とも気軽に話を行い、意見を言い易い職場作りを心がけている。	会議を職員の意見、提案を聞く機会としている。常勤、非常勤を問わず、全職員を仲間と考え、出来るだけ多くの意見がでるよう会議の時間帯や質問の仕方等を工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な研修については、会社負担での講習や各種資格手当を設けると共に、休日日数(年間120日)や、シフトの融通性をもって、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修でも、必要であれば場合によって会社負担で講習に参加出来たり、OJTとして先輩職員が直接指導を行い、なるべく個々の能力や希望に添うように機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所が主催している市内グループホームの会合に1~2回/年参加し、事業者同士の連携を図り入居者様の受け入れ先の相談などが出来ている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前は実態調査で本人と良く話をし、今の考えや希望を聴き、不安等があれば説明を行って納得して頂いている。入居後は通常よりも見守り・会話を頻回にしながら支援に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時に家族からの要望を伺い適宜アドバイスを行わせて頂いている。また入居後も、面会時に情報交換が出来るようになるべく話しかけるように心掛け、意見や要望が出やすい関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様と御家族が必要としていることを、話し合いの中から見付け、施設で対応出来るかの判断をきちんと伝えて、対応できない物に関しては、社外のサービスを提案させて頂いている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様毎に出来ることを見付けて、掃除や料理の手伝い、レクリエーションを一緒に行う事を心掛け、家族の一員として生活を共にしているような配慮を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に利用者様の様子を伝えるようにし、御家族と共に考えて介護を行うという体制を作り、その都度、職員を含め話し合い関係構築を心掛けている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店などに買い物に出掛けて支援している。御家族や友人の訪問は居室又はフロアにて面会に来られた方の話題や思い出話を耳を傾け快く過ごして頂けるよう支援している。	家族とのつながりを大切に考え、利用者との関係性が途切れないように支援している。毎月介護相談員の来訪があり、馴染みの関係となって楽しみの一つとなっている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日常会話の中に職員が入り、なるべく利用者様全員が楽しめる様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様や御家族にも今迄同様、行事のお誘いをしたり、退去後の様子を伺ったりしながら場合によっては相談に乗ったりアドバイスをしたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来れば入居者御本人とお話を行い希望等を直接伺っているが、出来ない場合には、仕草や表情などを観察し、その時に最適と思われる方法を実行している。	職員は、日々、利用者との信頼関係の構築を心がけており、一人ひとりの意向は日常の会話の中から把握し、申し送りや会議で共有している。困難な時には表情やしぐさ、家族からの情報等から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にサマリー等の情報提供及び利用者との会話の中から、なるべく今迄の生活スタイルや生活環境を把握し、可能な範囲で反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化には常に気を配り、日々の申し送りやケアカンファ、スタッフ会議などで検討し、ケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、計画作成担当者が中心となり、御家族からの意向も聞き入れて、介護計画を作成している。	介護計画は、本人、家族からの要望を取り入れ、担当者を中心に話し合って作成している。見直しの際にも再度「要望書」で家族の意向を確認し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護を行う中での気づき等は生活記録や職員連絡ノートを活用して、職員全体に周知すると共に、ケアプラン作成時にはカンファした内容をプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時にもっとも必要なサービスが何かを的確に把握し、施設内で出来ることについては可能な限りのサービスを行うが、出来ない事については外部サービス等を紹介したり、最善の方法を提案している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幸いにも近隣に地域資源が集中している為、外出という意味も込めて施設やイベント等を利用して頂いていて、特にイベントにはなるべく多くの方が参加できるよう配慮している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診、週1回の歯科往診等の医療支援を行う中、近隣の病院との連携で医師と入居者様の良好な関係が築け安心して頂いている。	ほとんどの利用者が訪問診療を利用しているが、基本的に家族対応にて、希望するかかりつけ医への受診も可能である。立地的には医療面での環境に恵まれており、連携をとりながら支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調変化・救急搬送については往診医及び提携医療機関の看護師の協力により相談や指示を受けられる体制ができるようになってきている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本的には御家族中心に対応しているが、情報交換等必要に応じて医療機関や相談員とも連絡を取り合い、病院との連携は密に行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療を視野に入れ施設で出来る事、出来ない事を明確にした上で方針をまとめ、御家族への説明や入居者様の希望を伺い実施する。現状は個々の状態に添った方法を、御家族や医師と相談しながら決定している。	重度化のあり方については、主治医の判断をもとに本人、家族とよく話をし、早め早めの対応に努めている。ターミナルケアを希望する利用者もいるので、安心して終末期を迎えられるよう、職員は研修を重ねている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、統一された方法で定期的な訓練を行い、実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い(夜間設定含む)、実施時には消防署にも報告を行っている。また、消防署は近隣にあるので、連携を取りやすく何かあればお互い行き来出来ている。	事業所の安全を第一に考え、避難訓練は夜間も含め、いろいろな想定で頻繁に行っている。消防署が近いので、連絡を取り合い大きな協力を得ているが、近所への声かけまでは行っていない。	近隣の住民とも、少しずつ協力関係が構築できることを期待する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は人生の先輩として、丁寧な言葉使いを基本とし、声かけする内容にも配慮して、尊厳を傷つけないようにしている。	接遇マナー向上委員会を設置して、誇りを損ねない言葉かけについて話し合いを重ねており、利用者の核心に触れるような話は皆の前ではしないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に介護者本位で決めてしまうのではなく、入居者様に声かけ確認するなどして、意思を表現できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを大切にしながら、その日の希望になるべく添いながらゆったりとした時間を過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族にも御協力を頂いて、自宅にある洋服をお持ち頂いたり、お化粧品を購入したりして、特に外出時には装いにも気を配れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設内で主に職員が作っているが、皮むきや盛り付け、お皿洗いなど、その方が出来ることを見つけ手伝って頂いている。	食事は、外部委託した食材を職員が作っているが、利用者の希望、能力に合わせて準備や片付け等を利用者と職員が一緒に行っている。行事の時や外食は特別メニューであり、楽しみなものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の尿量や水分摂取量に合わせて、バランスが取れる様に支援している。体調に合わせ、お粥、きざみ対応し栄養の確保が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	原則、入居者様自身でケアを行って頂くが、その後職員が確認し、不足している部分についてはお手伝いさせて頂き、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様々に合った支援をしている。日中、リハパンとパッドでも、夜間おむつ対応にしている利用者様もいる。トイレで出来る方には車椅子で自立排泄に努めている。	排泄パターンを把握し、個別の対応をしている。機能回復のためには、車いす利用であっても、職員が全てを支援するのではなく、声かけしながら少しでも自立排泄出来るような支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日行うリズム体操の他、なるべく歩行して頂くような声掛けや、おやつ、飲み物等(ヨーグルト、果物、牛乳)で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴も楽しみの一つなので、ゆず湯や菖蒲湯を提案し、なるべく入浴して頂ける様に誘導し入浴したくないという事が無いように工夫している。	気持ちよく入っていただくために、拒否のある場合にも無理強いせず、1日の中でどこかで入浴出来ればよいと考えて声かけをしている。無理な時でも清潔保持の配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の悪循環を起こさない為にも、一人一人の体調に合わせて声かけしている。また、希望に沿って休息して頂くが眠れない場合等は話し相手となる事もある。夜間は安眠できるよう、定期巡視等で見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指示のもと、処方内容、効果を確認し、薬の変更時は職員全員が把握するよう伝達を行っている。又、投薬後の入居者様の変化にも十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割等は決めずにその日の日々の中で利用者様の体調や気分に合わせて支援している。最近は御自分の役割と感じ声かけして頂けるようになった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の中で、車での移動で戸外に出て楽しんだり、御家族の協力で外食などに出掛けられるようにしている。又、玄関先が暖かい日だまりとなっていて、外気浴での気分転換なども図れる工夫をしている。	希望により、買い物や近所の公園等へよく出かけている。職員の個別対応又は家族の協力を得て外食に出かける人もいる。できるだけ皆が外出の雰囲気を楽しめるよう、玄関先でお茶を飲み、日向ぼっこをしながら足湯を行う工夫もしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は御家族と相談の上保管しているが、外出時に使用する場合には予め御家族と相談し、御自身の判断で使用できるように配慮している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の協力を得て、電話が出来る様になっている。また、手紙も御本人希望時は出したり返事が来るように配慮している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンとフロアがつながっているのが、家庭的な雰囲気がある。整理、整頓はもちろん、心地よく過ごして頂けるよう、又、利用者様を交えての季節の制作物等で、少しでも季節感を感じられるよう工夫している。	食堂兼居間にある畳のスペースは、利用者が自宅で過ごしていたように、昼寝をしたり、洗濯物をたたんだりする場として利用されており、壁面は、利用者と職員が作成した作品で季節感が感じられるよう工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外にも和室があったり、廊下に椅子が置いてあったりするので、個人やグループでの時間も大切に出来るよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今迄使い慣れたタンスや仏壇等、愛着がある物や精神的に落ち着く物を持ち込まれ、居心地の良い環境作りをしている。	居室には、それぞれ馴染みの物が持参されており、一人ひとり居心地よく過ごせるよう配慮されている。居室担当者が清掃を手伝っており、清掃も行き届いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には自分の居室と分かる物を貼り付けてたり、トイレの場所も分かるように工夫していて、なるべくご自身で生活できるように配慮している。			